和光市こども計画素案の論点

論点1 施策の体系（素案22ページ）

こども大綱を踏まえ、こども・若者の権利と意見の尊重を大きな柱とし、基本体系を入れ替え、「こども・若者の意見・参画」を基本方針1に移動しました。また、基本方針1に、「多様な背景をもつこども・若者を受け止める地域づくり」を追加し、困難ではないが多様な背景をもつこども施策を入れました。

論点2 成果指標（素案23ページ）

アンケート調査をもとに、基本方針に基づく成果指標を設定しました。毎年度の定量的評価を行うアウトプット指標と、アンケート調査結果から評価するアウトカム指標を設けました。

論点3 計画全体

これまでの「子ども・子育て支援事業計画」から「こども計画」へと移行する背景を掲載しました。そして、基本目標に対する目指す姿を表しました。また、基本施策を「課題」→「意見」→「方向性」→「主な取組」とすることでより分かりやすくしました。

論点4 教育・保育及び地域子ども・子育て支援事業の量の見込みと提供体制

現時点の数値として、量の見込みと提供体制を計画に入れました。

論点1 施策の体系

基本理念

「子どもが幸せを感じ地域みんなで幸せを実感できる」「こどもまんなか」和光

基本的な視点

生命、生存及び発達に対する権利・こどもの意見の尊重
差別の禁止・こどもの最善の利益

基本目標

今、こどもを支える地域社会がある
今、子育てが楽しいと感じる
今、こどもが主体的に健やかに成長できる
今、こどもが地域に参加して楽しいと感じる

和光市総合こども家庭センターによる一体的な運営と関係機関との連携

基本方針

- 1 こども・若者の意見表明・参画
- 2 こどもを守るセーフティネットの強化・支援
- 3 こどもが健やかに育つ「こどもまんなか」の環境づくり
- 4 安心・安全な妊娠出産・子育て支援の推進～わこう版ネウボラの充実～
- 5 子育て家庭を支える教育・保育サービス等の充実

施策

- ①こども・若者が意見を表明しやすい環境づくり
- ②地域の中での若者の主体的な参画
- ③多様な背景をもつこども・若者を受け止める地域づくり
- ①困難を抱えたこどもへの支援
- ②こどもを守る地域づくり
- ①こども・若者の居場所づくり
- ②こどもの自主性と社会性を育む環境づくり
- ③こどもの心と体を育む健康づくり
- ①妊娠・出産・子育てを支える切れ目のない伴走型支援の強化
- ②多様なニーズを有する子育て家庭への支援強化
- ①自己肯定感を育むこどもの育ちの確保と家庭における子育て力の向上
- ②多様なニーズに対応した教育・保育サービス等の推進
- ③教育・保育等の基盤整備計画（量の見込みと提供体制）

論点2 成果指標

No.	基本方針	成果指標	現状値	目標値(R11)	目指す状態
1	1 こども・若者の意見表明・参画	市がこども・若者の意見を聴いて実施した事業数	後入れ		こども・若者とともに考え、市の事業を推進している。
2		まわりの人から認められている、と思う小中学生の割合	小学4年生 79.7% 中学1年生 78.1%	小学4年生 85.0% 中学1年生 85.0%	こどもの意見が日ごろから尊重されていると感じている。
3		和光市の事業や地域活動等に参加している若者の割合	中間見直しで設定	中間見直しで設定	若者が、地域での活動に力を発揮している。
4		将来の夢や目標を持っている、と思う小中学生の割合	小学4年生 79.9% 中学1年生 65.8%	小学4年生 86.0% 中学1年生 75.0%	こどもが、将来に向かって夢や希望を持っていると感じている。
5	2 こどもを守る セーフティネットの強化・支援	和光市はしやすい、と感じる小中学生の割合	小学4年生 94.9% 中学1年生 95.5%	小学4年生 98.0% 中学1年生 98.0%	こどもが、安心してくらすことができる。
6		悩みを相談できる人がいる、と思う小中学生の割合	小学4年生 85.9% 中学1年生 79.6%	小学4年生 90.0% 中学1年生 85.0%	こどもが、悩みを相談できる人がいると感じている。
7		悩みを相談できる人がいる、と思う若者の割合	後入れ	後入れ	若者が、悩みを相談できる人がいると感じている。
8		学校等とのヤングケアラーについて情報共有会議を開催した回数	0回	12回	ヤングケアラーを早期に把握する体制が整っている。

No.	基本方針	成果指標	現状値	目標値(R11)	目指す状態
9	3 こどもが健やかに育つ「こどもまんなか」の環境づくり	いごこちがいい、安心できる、ここにいたいという場所がある、と思う小中学生の割合	小学4年生 98.2% 中学1年生 96.9%	小学4年生 100.0% 中学1年生 100.0%	こどもが、心から安心していられる場所があると感じている。
10		いごこちがいい、安心できる、ここにいたいという場所がある、と思う若者の割合	後入れ	後入れ	若者が、心から安心していられる場所があると感じている。
11		今の生活が楽しい、と思う小中学生の割合	小学4年生 90.6% 中学1年生 91.8%	小学4年生 95.0% 中学1年生 95.0%	こどもが、今の生活を楽しいと感じている。
12		児童センター・児童館の利用児童における中高生の割合	6.9%	8.0%	児童館センター・児童館が中高生の居場所の一つとなっている。
13	4 安心・安全な妊娠・出産・子育て支援の推進	子育てを楽しんでいると感じる人が多い、と感じる保護者の割合	69.4%	75.0%	保護者が、子育てを楽しんでいる。
14		子育てについて相談できる人がいない、と感じる割合	11.4%	5.0%	保護者が、安心して子育てについて相談できる人がいる。
15		和光市は子育てしやすいところだ、と思う保護者の割合	35.8%	43.0%	保護者が、安心して子育てができている。
16		乳幼児健康診査の未受診率	3.3%	2.2%	こどもが健やかに成長できている。

No.	基本方針	成果指標	現状値	目標値(R11)	目指す状態
17	5 子育て家庭を支える教育・保育サービス等の充実	和光市は子育てしやすいところだ、と思う保護者の割合(再掲)	35.8%	43.0%	保護者が、安心して子育てができている。
18		民間保育施設等に対する指導監査(実地指導)の実施率(1回/年)	100%	100.0%	保育の現場において、保育の質の維持・向上が図られている。
19		園生活において、こどもが大切にされている、と感じる保護者の割合	87.6%	90.0%	保育の現場において、保育の質の維持・向上が図られている。

論点3 計画全体

(1)子ども・子育て支援事業計画からこども計画へ（8ページ）

市では、令和2年3月に「第2期和光市子ども・子育て支援事業計画」を策定し、「子どもが自己肯定感を持ち健やかに育つしくみづくり」を基本理念として、こども・子育て支援に関する各種事業に取り組んできました。特に、保健、医療、福祉が一体的に提供される地域包括ケアシステムの一環として、こども家庭センターの前進となる「わこう版ネウボラ」を確立し、推進してきました。

その間、急激に増加する待機児童対策として基盤整備を進めた結果、待機児童数は減少したものの、コロナ禍の影響により、地域の見守りや交流が途絶えコミュニティがより一層希薄化したほか、こどもや子育て家庭を取り巻く環境も大きく変容しました。また、育児休業の利用拡大、テレワークの普及等、保護者の働き方も急激に変化しました。

こども計画では、わこう版ネウボラのしくみを継承しつつ、これまで設置していた児童相談の窓口である「子ども家庭総合支援拠点」と母子保健の機能を一体化して、関係機関と連携する「総合こども家庭センター」を設置し、こどもや子育て家庭をとりまく環境の急激な変化やコロナ禍の影響により新たに生じている課題にも迅速に対応していきます。

(2)基本目標と目指す姿（20ページ）

今、こどもが地域に参加して楽しいと感じる

【目指す姿】

こどもの権利が保障され、こども一人一人が日常生活や地域社会等の場面で安心できる居場所があり、安心して意見を表明し、自分らしさを肯定され、周囲に受け入れられているとこどもが実感できる社会を目指します。

今、こどもが主体的に健やかに成長できる

【目指す姿】

こどもの最善の利益が優先され、こどもを主体としたこどもの成長を支援します。こどもが、心身ともに安全・安心してくらすことができる社会を目指します。

今、子育てが楽しいと感じる

【目指す姿】

妊娠期からこどもが自立するまでの全ての子育て家庭が、地域の中でつながりながら、楽しく居心地がよくくらすことができる社会を目指します。

今、こどもを支える地域社会がある

【目指す姿】

地域が、こどもは地域社会を形成する一員であり、その主体であることを認識して、地域でこどもを支える社会を目指します。

論点4 教育・保育及び地域子ども・子育て支援事業の量の見込み
と提供体制

計画素案68ページ